



東京歯科大学広報



庚寅（かのえとら）

平成22年1月

金子 讓学長年頭の挨拶

皆さん明けましておめでとうございます。

今年は大変良い天気恵まれて、短いお正月休暇でしたが、皆さんもそれぞれにご家族等と楽しく過ごされたことと思います。私は台湾に行って来たのですが、台湾には本学の旧水道橋校舎を設計された森山松之助先生が造られた建築物がいくつかありまして、それを見る目的もありました。私はこの分野において素人ですが、大変素晴らしい建築物でした。

さて、我々執行部の任期は本年の5月までですので、本日はその残りの任期を執行部としてどのように全うしていくかというお話しをさせていただきます。

2009年12月
2010年 1月
240号

本号の主な内容

- ・金子 讓学長年頭の挨拶
- ・薬師寺 仁副学長 日本歯科医学会会長賞受賞
- ・市川総合病院新電子カルテシステム導入
- ・2009年の回想& 2010年の抱負

本学の現況と対応策

まず、現在社会が非常に動いている中で、我々歯科大学がかかえる危機として、志願者激減という問題があります。本学への志願者も、かなり深刻な状況ではあるのですが、これは本学のみではなく、全国の歯科大学・歯学部が同じような状況にあるのです。昨年、皆さんに配布させていただいた大学広報237号「水道橋移転と歯学部志願者動向」というタイトルで、志願者数の約50年間の変動について報告させていただきました。その中のグラフで志願者数の推移における2つの山について表記をしましたが、現在はその谷底に入っているという状況です。おそらく、この志願者数の減少はここ数年間で上昇回復することはないであろうと、私自身は考えます。そこで、この状況にどう対応していくかということなのですが、井出吉信副学長や小田 豊教務部長を始めとする教務部の尽力で多数の高等学校を訪問し、いわゆる受験生集めをしているということがあります。かつては考えられなかった事なのですが、現在、高校の先生や予備校教師の方々の歯科に対する感覚が非常に狭小で一般の歯科医院のイメージを出ない部分があり、その背景に広大な生命科学があるという認識までは至っておりません。

また、他方の大きな危機はやはり経済であり、歯科医院の収入そのものが低下していることがあげられます。これは、学生が歯科医療収入の低下が将来の危惧になっているためだけで歯科大学を志願しないということではなく、開業している先生方がご子息を歯科大学に入学させるだけの資力が無くなってきたこともあげられると思います。この二つの側面をみても、我々がおかれている現状が極めて危機的な状況にあることを認識しておく必要があります。

そこで、我々がこの状況をどのように打開していくのかということですが、社会の現況として如何ともしがたい部分があるのですが、一つは先ほども申し上げましたように歯科の魅力を学生に伝えていただくために、高校や予備校の指導者の方々にそれを認識してもらうための地道な努力を続けていくこと。もう一つは、我々歯科大学の本来の役割である教育・研究・診療を着実にやっていくと同時に、これを世の中の方々に積極的に広報活動していく必要があると思います。例えば、テレビCMを見ていると、いわゆる一般の医薬品等のCMの最後には「医師にかかって下さい」という表示がされるのですが、歯科に関するCM、最近では一般の方々にも理解されるようになってきた歯周病の予防や管理などの情報の後に「歯科医院で受診して下さい」というものは、ほとんど見たことがありません。このように、歯科の広報活動はまだまだ少ないので、今後拡げていかなければならない問題であると思います。

新しい希望

次に移転の関係がありますが、建築計画については今年の夏前には実設計、年内には着工というところまで進んでおり、ここには新しい希望が生まれております。この件ではいろいろなご意見があることも存じ上げておりますが、やはり今後の少子高齢化を考えると東京の機能は、郊外や地方とは全く異なった様相をたどっていくであろうと思います。本学の教育・研究を閉鎖された中で行うのではなく、いろいろな枝を伸ばしながら他と連携する中で機能を高めていかなければ、東京歯科大学として本来の役割は果たしていけません。本学は単科の小さな大学ではありますが、我々の役割をしっかりと担っていく限りにおいては、日本の文化、科学の面で健康という視点から必ず役に立っていきますので、皆さんは自信と誇りを持って、事にあたっていただきたいと思います。

東京歯科大学の今後のコンセプトは、何回もお話しておりますが、低経費で高機能にするということです。お金をかけずに教育・研究・診療という三つの使命を高いレベルで行っていくことが東京歯科大学の役割だろうと思っております。このような大きなコンセプトは簡単に話すことができますが、それをどのような方法で行っていくのか、今後実際のソフトに入っていく段階では、皆さんの知恵と勇気が必要になってきます。今年は21世紀に入り10年が経過し、社会的な構造改革が行われる一時期で、社会自体がいろいろな意味で分水嶺、剣が峰、そのような時期に当るのでしょう。皆さんが過去を振り返った時に、あの時が変革の時だったと思えるよう、一人一人が意識を持って活躍していただきたいと思います。

満足感を得るために

今後、我々の生活の中で重要になっていくことは、自分自身がいかに満足感を得ることができるかということではないかと思えます。では、満足とは一体何でしょうか。戦後は三種の神器と言われたテレビ、冷蔵庫、洗濯機など、いわゆる物を持つことが幸せだと考えられていましたが、今の時代それは大きく変化しており、特に車など物に対する魅力を持たない若者が数多くおります。現在の満足感とは、物によって得られるものではないのです。例えば、私はラーメンが大好きなのですが、自分の口に合った美味しいラーメン屋さんを見つけると非常に幸せを感じます。これを生活の中での満足感と同じくすることは問題がありますが、このような小さな事の積み重ねが結果的には自分たちの生きる意欲に繋がっていくのだらうと思えます。皆さんの働いている大学は24時間の内、少なくとも8時間、多い人でしたら12時間程度居る場所です。この場所で何かしらの満足感を得ていくことが大切なことであると思えます。目標や課題を見つけ、それを成し遂げたり解決することによって、満足感は得られると思えます。そのためにも、大学が、それぞれの教室が、また自分たちのグループが何を志向しているのか、これらを良く理解し、お互いが話し合い、そして協力しながら一つの目標に向かって進んでいくことが必要であろうと思えます。また、事務系であれば業務量も増加し大変だとは思いますが、超過勤務、いわゆる残業が大きな問題となっております。これをどのように縮小していくか、今年度の大きな課題ですので、この問題にも取り組んでいっていただきたいと思えます。

歯学部定員削減問題

もう一つ、今年は歯科大学・歯学部の抱える大きな問題、学生の定員削減に関して、国は切迫感を持ってやってくるだらうと思えます。国立大学では10%の削減を行うようですが、そもそも私立歯科大学協会では国立大学が行うならという立場でしたので、極めて強力に求められると考えます。私立歯科大学の場合、今年度は志願者が激減しており、いくつかの大学ではすでに定員不足を生じております。これは私立歯科大学全体から見れば、実際に1割の定員が削減された状況になっているのです。これをどのように解釈するかですが、文科省においては、この状況は社会が作りだしたこととして、認めてはいただけません。しかしながら、医療の現場には、より高度な知識・技術、そして最も大切な心が必要であり、そのためにはより良い大学の教育を提供し有為な人材を育成しなければなりません。また、歯科大学の中で象徴的にとらえる国家試験の合格率を見ても、私立歯科大学の中で90%近くから40%台まで非常に幅広い差があることも事実です。このような状況の中で、一律に定員の削減を行うことは、国民の医療にとって有益なことなのでしょうか。今後は、このような議論も行われていくと思えますが、本学としてもこの問題について対応を検討していかなければなりません。

創立120周年

このように多くの課題を抱えながらですが、今年は創立120周年という極めて長い歴史をたどってきた節目ということで、継承と発展をテーマに記念事業を行います。これはひとえに一日一日を過ごしてきた結果であり、単純に継続すればよいというわけではなく、本学が今後どうあるべきかを考えながら次に繋げていくということで、良いところは継承し、また新しい歯科医療の発展に東京歯科大学の役割を担っていこうという意味が込められています。

本学は1,300名弱の教職員の皆さんによって支えられております。本年も気持ちを明るく強く持って、目標に向かって皆さまのご尽力で次の東京歯科大学発展のステップにさせていただきたいと思えます。1年間また同じ繰り返しが始まるわけですが、中身はいろいろ違うと思えます。健康に気をつけていただきおおいに活躍をして下さい。

どうぞ宜しくお願いします。

学内ニュース

■山村紘子臨床専門専修科生 ベストプレゼンテーション賞を受賞

平成21年10月29日（木）～31日（土）に浜松市で第29回日本臨床麻酔学会大会が開催された。本大会は国内麻酔領域の学会では最大規模のものであり、今回の一般演題数も630題を越えた。この中で山村紘子臨床専門専修科生が「エアウェイスコープTM（以下AWS）を用いた経鼻挿管の検討」という演題で、ベストプレゼンテーション賞を受賞した。本賞は、まず興味深い演題として80演題がポスターディスカッション（ポスター掲示に加えコンピューターディスプレイを用いたプレゼンテーションを7分行き、その後質疑応答8分）として採択され、さらにセッション中で最も優秀と高く評価された発表者に贈られる賞である。

演題内容は経口挿管用として開発されたAWS（モニター画像を確認しながら気管挿管することができるビデオ硬性挿管用喉頭鏡であり、喉頭展開の必要がないことから、開口障害や頸椎損傷の患者への有効性が報告されている）を経鼻挿管に用いその有効性を評価したものである。今回の研究から、経鼻挿管時の挿管難易度や咽頭痛の程度をAWS使用時と喉頭鏡使用時とで比較するとともに、喉頭鏡使用時に気管チューブが気管前壁に当たり挿管が困難となる原因が、気管チューブの進行方向と喉頭軸の関係によるものであることが示された。さらにAWSでは経鼻挿管において気管チューブが気管前壁に当たることなく挿管され経鼻挿管でのその有効性が証明された。今後も安全で確実な経鼻挿管法の確立のための研究を続け、広めていくことが望まれる。



受賞した山村臨床専門専修科生

■平成21年度東京都エイズ診療従事者臨床研修開催

平成21年11月11日（水）、12日（木）および平成22年1月21日（木）、22日（金）の2回にわたり、水道橋病院において「平成21年度東京都エイズ診療従事者臨床研修」が開催された。この研修は、水道橋病院が東京都福祉保健局から委託を受け、都内の医療従事者向けにエイズに関する実践的な知識・技術の習得を目的に行っているものである。11回目にあたる今年度は、11月が6名、1月が7名の合計13名であった。また、実習以外の講義は、本院の臨床研修歯科医も受講した。

研修は、柿澤 卓水道橋病院長をはじめ、水道橋病院のスタッフが講義・実習を担当した。また、11月11日には根岸昌功先生（ねぎし内科診療所院長）、1月21日には今村顕史先生（東京都立駒込病院感染症科）を講師にお迎えし、「エイズ診療の基礎知識」として、専門医の立場から貴重な講義をいただいた。その他の講義は、スタンダード・プリコーションの理念および具体的な取り組



講演する柿澤水道橋病院長：平成21年11月11日（水）、水道橋病院研修室



CCRでの実習風景：平成22年1月21日（木）、水道橋病院CCR

み、感染症者の歯科治療における注意点、HIV/AIDSの口腔症状、HIV症例呈示などであった。実習は、手洗いおよび含漱の評価、CCR（クリーンケアルーム）において感染予防対策の実習およびHIV感染者の治療見学を行った。

■市川市との合同医療救護活動訓練実施

平成21年11月21日（土）午後2時より、市川総合病院において、市川市との合同医療救護活動訓練を行った。

初めての試みとなる今回の訓練において、その想定地震規模は、東京湾北部を震源とするマグニチュード7.1、市内震度6強から6弱で、建物倒壊及び火災が発生し、総武線沿線の市街地を中心に多くの負傷者が発生したというものであった。

大規模な地震災害などに際して、災害拠点病院である当院の役割は、市川市及び市川市医師会と相互に連携を図り、速やかに医療救護活動を実施し、後方病院の機能を果たすというものである。来院した患者を負傷の程度に関係なく受け入れてしまうと、当院が患者で溢れ、重傷者への対応など本来の役割が損なわれてしまう可能性がある。そのため、市川市により当院正面に仮設救護所が設営され、市川市医師会の医師によるトリアージが実施されることとなっている。軽微な負傷患者は仮設救護所で治療して帰宅させ、院内での治療が必要となる重症患者を判別して後方病院である当院へ搬送する。一方、当院側では仮設救護所から搬送されてくる重症患者を受け入れ、院内で二次トリアージを実施して重症患者の処置を行うという、それぞれの役割があらかじめ決められている。訓練は、そうした役割分担を意識しつつ行われた。

当日は晴天に恵まれ、市川市職員及び消防局員約30名、土橋正彦市川市医師会長をはじめとする医師会医師3名、当院医師7名、歯科医師2名を含む当院教職員約40名が参加した。院内の受け入れ場所は、訓練全体が見渡せるように1階待合ロビーに各区分エリアを設け、各エリア毎に負傷者の対応レベルを設定し、それぞれの症例に応じた受け入れ、検査、処置、各部署との連絡等の訓練が行われた。

第1回目の合同訓練としては、滞りなく進行し、人の動きや各種オーダーなどの流れを確認す

ることができた。また、今後の課題となる問題点も数多く発見することができた。実際に災害が発生した際に、受け入れ能力を超えた多数の被災者が来院した場合には、対応が不可能になるという現実も想像されることから、普段から地域住民に対する啓蒙活動も重要であることが再認識された。災害時の基本的な考え方や、流れを理解する上でも非常に有意義だったと言える。訓練の終わりには、栄養管理室により非常食の試食も行われ、参加者の災害に対する意識がより高まった訓練となった。



トリアージをする市川市医師会医師:平成21年11月21日（土）、市川総合病院前



院内における負傷者処置行為:平成21年11月21日（土）、市川総合病院1階待合ロビー

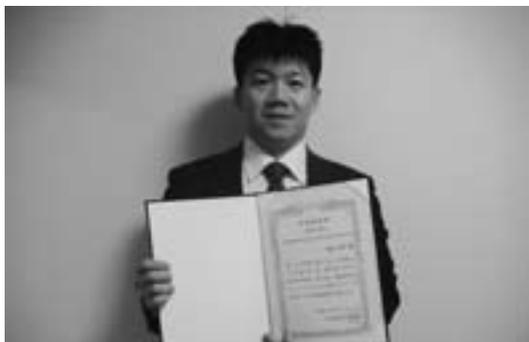
■亀山敦史講師 学術奨励賞を受賞

平成21年11月28日（土）の第27回日本歯科東洋医学会総会（福岡県歯科医師会館 福岡市）において、千葉病院総合診療科の亀山敦史講師が学術奨励賞を受賞した。今回の受賞は、前年度の本学会学術大会（平成20年11月29日（土）、30日（日）東京都）で亀山講師がポスター発表を行った調査研究「わが国の医・歯・薬学部における東洋医学教育第1報 実施状況とカリキュラム中での位置づけ」に対して学術大会参加者の投票、理事会の承

認を経て選出されたものである。

全国の医・歯・薬学部183校を対象に東洋医学教育に関するアンケート調査を実施した。医学部では平成13年以降に東洋医学の卒前教育を開始した大学が急増し、現在では9割強の大学で実施されているのに対し、歯学部では実施率が5割に満たず、廃止した大学も数校あるなど、両学部間での傾向が全く異なることが本研究で明らかとなった。

なお、本発表内容については、日本歯科新聞2008年12月9日号でも記事に取り上げられた。



受賞した亀山講師

■第26回カリキュラム研修ワークショップ開催

平成21年12月4日(金)～6日(日)、千葉校舎実習講義室Ⅲ、Ⅳにおいて、第26回カリキュラム研修ワークショップが開催された。今回は本務教員の他、財団法人歯科医療研修振興財団の研修案内により参加した26名を対象とし、歯科医師臨床研修のカリキュラム・プランニング、問題点の解決法に関する9つのセッション、2つのレクチャーからなるプログラムが歯科医療研修振興財団との共催にて実施された。

限られた時間内に討議・発表を行う凝縮された



総合討論にて質問する受講者:平成21年12月4日(金)、千葉校舎実習講義室Ⅲ

内容のワークショップに参加した受講者は「研修医の問題点を色々な方面から知ることが出来た」「本当の良い教育について見つめなおしたい」等の感想が挙げられた。最後に、受講者に対して修了証書が授与され、3日間の日程を無事終了した。

本ワークショップを今後も継続して実施することにより、教育体制の改革と教育指導のより一層の充実ならびに歯科医師臨床研修における指導歯科医の充実を目指している。

■平成22年度大学院歯学研究科入学試験(Ⅰ期)実施

平成21年12月5日(土)午前9時30分から千葉校舎において、平成22年度大学院歯学研究科入学試験(Ⅰ期)が実施され、外国語(英語)試験および志望講座における主科目試験・面接が行われた。また同日、社会人特別選抜及び口腔がん専門医養成コースも実施され、外国語(英語)試験および口頭試問(面接)、志望講座における主科目試験・面接が行われた。本年度は志願者27名(一般27名(口腔がん専門医養成コース2名含む))が受験し、12月11日(金)正午に合格者の発表が行われた。なお、Ⅱ期は平成22年2月20日(土)に実施される予定である。

■金子 譲学長、Nguyen Phu Binh (グエンフービン) 駐日ベトナム社会主義共和国特命全権大使と会見

東京歯科大学口腔外科グループと日本口唇口蓋裂協会(理事長川口文夫中部経済連合会会長)が中心となって、1994年(ホーチミンは1996年)からベトナム ホーチミン市を中心とした南部メコンデルタ地帯で実施している口唇口蓋裂無償手術と医療技術移転(指導)に対して、Binh大使から金子 譲学長と内山健志教授に謝意が伝えられた。これは同協会常務理事の夏目長門氏のご高配により、平成21年12月7日(月)、ホテルニューオータニにおいてBinh大使との会見が実現したもので、その席上、この医療援助活動への人材派遣、物品供与の両面の多大なる支援について大使から金子学長へ感謝の言葉が述べられた。また12月5日(土)に本年度のミッションから帰国したばかりの内山教授から、スライドを交えて活動の報告があった。

内山教授は、「毎年多くの患者に接し、限られた期間での手術と全身麻酔には緊張もあるが、手術目的を安全に遂げ、無事抜管しえたときの達成感は何物にも代え難い。また患者と家族からの笑顔とベトナムスタッフからの賛辞を受けた時ほど、専門的な技量が活かされて大学と国の国際医療貢献に参画できたことに大きな喜びと誇りを感じる。口腔外科、歯科麻酔科だけでなくコメディカルも含めて多くの人が同様に体験できる機会である」と述べ、今後もできる限り、このような国際医療援助に貢献したい旨の抱負を語った。

口腔外科医と歯科麻酔医からなる東京歯科大学唇顎口蓋裂治療チーム (TDC Cleft Team) は、約10年カナダチームと共同でこの事業に従事し、医療技術移転(指導)のみならず、3国の交流にも寄与してきている。このような活動を本学としても継続して支援をしていきたいと学長から大使に伝えられた。会見は2時間にわたるものであったが終始和やかに進められた。会談中、Binh 大使の再三にわたる「地震が多く、資源が乏しい日本が先進国であるのは、チームワークがよく、仕事

に対するひたむきさ、取り組みが何より素晴らしいことであると思う。欧米からも多くのことを学ぶが、これを目指していきたい」とのコメントが印象的であった。

■第89回歯科医学教育セミナー開催

平成21年12月7日(月)午後6時より千葉校舎第2教室において、第89回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、日本歯科大学新潟生命歯学部 教務部長の藤井一維教授を講師にお迎えし、「携帯電話による双方向型授業ソクラテスシステムの概要と方法」と題した講演を伺った。

現在では全学生が携帯電話を保有する時代になっており、多くの携帯電話にはICチップが搭載されている部分に着目し、携帯電話を利用した授業・学生支援を平成19年10月から開始し、双方向型授業の実施、授業の出欠席管理、学生の各種呼び出し等を実施している旨紹介された。

特に双方向型授業は、講義中に提示した問題・課題等の解答をリアルタイムに携帯電話を用いて行い、教員もその回答状況を持ち込んだパソコンにより、リアルタイムに知ることができ、即座に採点・集計が可能でロスタイムがなく、平均点、識別指数までもが表示されるため、講義方法の修正、学生の理解度に合わせた講義や補足が瞬時にできる等の説明があった。

このようなモバイル媒体を導入した授業形態は本学にも参考になる部分が多く、当日は90名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ大変有意義なセミナーとなった。



謝意を伝え内山教授と握手するBinh大使(右からBinh大使、金子学長、内山教授):平成21年12月7日(月)、ホテルニューオータニ



会談後の記念撮影:平成21年12月7日(月)、ホテルニューオータニ



講演される藤井教授:平成21年12月7日(月)、千葉校舎第2教室

■平成21年度（第40回）千葉県私学教育功労者表彰を受ける

千葉病院 主任薬剤師 森塚光子氏
市川総合病院 施設課長 古澤英志氏
市川総合病院 庶務課庶務係 入江加代子氏

この表彰は、千葉県内の私立学校の教職員として長期間従事し、特に功労があった者として各学校から推薦された候補者の中から選ばれるものであり、今回、本学からは当該者3名を推薦した結果、表彰されることとなった。

森塚氏は、薬剤師として、昭和49年から35年間、市川病院、千葉病院に勤務しており、真面目に仕事に従事する姿勢や患者への接し方など他の職員の模範となっている。主任薬剤師として病院の発展に尽力するだけでなく、歯学部学生及び臨床研修歯科医の指導に積極的に取り組み、その質の向



表彰を受けた森塚氏（上）、古澤氏（中）、入江氏（下）：平成21年12月5日（土）

上においても貢献している。

古澤氏は、事務職員として昭和49年から35年間、多岐に渡る業務に精励してきた。その仕事ぶりは極めて謹厳実直であり、他の職員の範たる存在である。現在は、市川総合病院の施設課長として、事務部各課だけでなく、医師・歯科医師、看護部門、コメディカル部門と連携を取り、施設設備の保守管理を円滑に効率よく遂行している。

また、入江氏は、事務職員として昭和47年から38年の長きに渡り、図書館司書業務に精励してきた。堅実で丁寧な仕事ぶりで、大学では、教員や学生の教育・研究活動を地道に支え続け、病院図書館においても、大量の文献や資料を管理し、大学図書館との密な連携を築き、司書として厚い信頼を得ている。

以上のように、本学から推薦した3名の貢献してきた功績が高く評価され、今回の表彰となったものである。

■柴原孝彦教授 平成21年度「時局講演会シンポジウム」で講演

平成21年12月9日（水）に千葉市歯科医師会館5階会議室において、時局講演会シンポジウム「市民に口腔の健康をー口腔がん検診を通してー」が実施された。本講演会は千葉市歯科医師会が主催となり、千葉市と東京歯科大学口腔外科学講座が共催・後援した。今回、熊谷俊人千葉市長ならびに千葉光行市川市長がパネラーとして参加し、200名余りの千葉市歯科医師会会員と千葉市市議会議長ならびに市議会議員が集まった。この中で、口腔外科学講座の柴原孝彦教授が「千葉市の口腔がん対策ー歯科医師として、行政としてー」と題して基調講演を行った。講演では、口腔がん



講演する柴原教授：平成21年12月9日（水）、千葉市歯科医師会館

個別検診の普及と向上について、そして行政と歯科医師会が協同して行う次世代の口腔がん検診システムについて説明が行われた。引き続き開催されたパネルディスカッションでは、歯科医師会会長の司会のもと、柴原教授、熊谷千葉市長ならびに千葉市川市長も加わり、歯科医師会員を含めた参加者と今後行政との連携について活発な意見交換が行われた。最後に藤本俊男千葉市歯科医師会会長から柴原教授へ感謝状が贈られた。



パネルディスカッションの様子:平成21年12月9日(水)、千葉市歯科医師会館

■平成21年度第7回水道橋病院教職員研修会開催

平成21年12月21日(月)午後5時30分より、水道橋病院において、平成21年度第7回水道橋病院教職員研修会が開催された。今回は全教職員を対象に、感染予防の基本である手洗いについての実習が行なわれた。

手順としては次のように行った。

Step1: 専用の蛍光ローションを1プッシュ(約1ml)し、まんべんなく手指に擦り込む。

Step2: 石けん液を使って手揉み洗いを20秒間行ない、水洗する。

Step3: 暗所で専用ライトに手をかざすと、洗い



洗い残しのチェック風景:平成21年12月21日(月)、水道橋病院第1・2会議室

残しの部分が白く発光する。

Step1・2は総合歯科第1診療室が、Step3は第1・2会議室が研修会場に充てられた。

特に手洗いの時間については、ストップウォッチで正確に20秒間を計測して行なったため、各自が真剣に取り組んでいた。また今回の方法では、手指のどんな場所に洗い残しが多くなる傾向にあるのかが明確に把握できた。日常多くの患者様と接する機会の多い水道橋病院の教職員にとって、大変内容の濃い有意義な研修会となった。

■「平成21年仕事納めの会」実施

千葉校舎「平成21年仕事納めの会」は、平成21年12月28日(月)午後1時から厚生棟1階食堂において開催された。会場には多数の教職員、大学院生、臨床研修歯科医等が集まり、菅沼弘春大学庶務課長の司会のもと、金子 讓学長から1年を締め括る挨拶が述べられた。引き続き、薬師寺 仁副学長の発声により一同乾杯し、一年間の労をねぎらいながら賑やかに会は進行した。懇談の中、吉峯規雄大学事務部長の中締めにより会は和やかな雰囲気のまま閉会となった。



挨拶する金子学長:平成21年12月28日(月)、千葉校舎厚生棟



挨拶する柿澤水道橋病院長:平成21年12月28日(月)、水道橋校舎6階

水道橋校舎では午後6時より水道橋校舎6階にて、熱田俊之助理事長、歴代の水道橋病院長の先生方、金子学長、薬師寺副学長、井出吉信副学長をお迎えし、水道橋病院・法人事務局・同窓会事務局の教職員が一堂に会して開催された。会の冒頭で熱田理事長、金子学長よりご挨拶をいただき、続いて柿澤 卓水道橋病院長のご挨拶および発声により乾杯した。参加した教職員は終始和やかな雰囲気でご懇親を深め合い、横石武美水道橋病院副院長の中締めによりお開きとなった。

■平成21年度「NHK歳末たすけあい募金」実施

年末恒例の「歳末たすけあい募金」は、平成21年度も千葉校舎、市川総合病院、水道橋校舎の3施設において、12月初旬から年末までの日程で実施された。

なお、集められた募金は、すべて「NHK歳末たすけあい義援金」として寄付された。募金は共同募金会を通じて、国内の援助を必要とする子どもたちや体の不自由な方々、そして介護を必要とするお年寄り、福祉施設等のために利用される。

■「平成22年仕事始めの会」実施

千葉校舎「平成22年仕事始めの会」は、平成22年1月5日(火)午前9時から講堂において教職員、大学院生並びに臨床研修歯科医等が出席し、菅沼弘春大学庶務課長の司会のもと、金子 讓学長による年頭の挨拶が行われた。

市川総合病院では、午後4時30分から講堂において開催された。熱田俊之助理事長、金子学長、安藤暢敏市川総合病院院長より、市川総合病院教職員に対して年頭の挨拶が行われ、市川総合病院の一年の幕開けになった。



挨拶する金子学長：平成22年1月5日（火）、千葉校舎講堂

水道橋校舎では午後6時より血協記念ホールにて、水道橋病院・法人事務局の教職員の出席のもとに開催された。はじめに柿澤 卓水道橋病院長より年頭のご挨拶があり、続いて金子学長より、挨拶ならびに水道橋移転の進捗状況および本学の財政状況についてご報告いただいた。

■薬師寺 仁 副学長 日本歯科医学会会長賞を受賞

平成21年度の日本歯科医学会会長賞候補として、推薦されていた小児歯科学の薬師寺 仁副学長は、同賞（教育部門）の受賞が決定し、平成22年1月22日(金)に日本歯科医師会大会議室で行われた授賞式において、江藤一洋日本歯科医学会会長から表彰状と副賞を授与された。

薬師寺副学長は、「小児齲蝕の洪水の時代」と言われた昭和40年代当時であって、小児患者の診療と小児歯科医療EBMの確立の基となる基礎・臨床研究に精力的に取り組む傍ら、今日まで38年間にわたり学部学生、大学院学生さらには本学歯科衛生士専門学校学生達を熱心に指導されてきた。

平成10年4月、講座主任就任後には「子育て支援」をメインテーマに、児童虐待防止に対する小児歯科の役割、病児の口腔保健維持・向上等の課題を中心に卒前の小児歯科学教育を推進され、我が国の歯科医学教育へ多大な貢献をされた。

また、薬師寺副学長は、中華人民共和国の3大学において口腔医学院の客員教授に就任されており、「日本の新たな歯科医学教育の現状」と題する講演を行い、我が国の「歯科医学教育モデルコアカリキュラムの策定経緯とその趣旨」を紹介されている。さらに、それぞれの大学において、大学院生や児童口腔科の教員を対象として小児歯科学の講義をされ、中国小児歯科学の発展にも貢献さ



日本歯科医学会会長賞を受賞した薬師寺副学長（右）：平成22年1月22日（金）、日本歯科医師会大会議室

れている。

今回の日本歯科医学会会長賞の受賞は、薬師寺副学長のこれまでの教育活動が高く評価されたことの証であり、本学にとっても大変名誉なことである。

■第90回歯科医学教育セミナー開催

平成22年1月25日(月)午後6時より千葉校舎第1教室において、第90回歯科医学教育セミナーが開催された。今回は、「私の授業の工夫」と題し、教養系、基礎系、臨床系からそれぞれ英語研究室 森田雅義准教授、解剖学講座 阿部伸一准教授、歯科保存学講座 中川寛一教授より日ごろの授業で工夫している内容について説明が行われた。

三者ともテキストの選定をはじめとした学生への資料提供について、意欲を上げるためや理解度を深めるための工夫が施されていて、日常生活に密着した英語クイズを取り入れたり、動画や画像など視覚素材を効果的に活用したり、講義テキストを穴埋めにして学生が手を動かしながら講義を聴くようにしたりするなど、学生主体の授業を構

成していると感じられた。

特に授業評価アンケートについては、集計結果を翌年度の授業構成に活用するだけでなく、教員が自由に設定できる追加の質問項目を積極的に使用しているなど、他の教員にも参考になる点が多いと感じられた。

当日は135名近い参加者が集まり、質疑応答も活発に行われ、授業構成や運営にもう一工夫加えたいと考えている教職員に対して大変有意義なセミナーとなった。



説明する森田准教授：平成22年1月25日(月)、千葉校舎第1教室

トピックス

■クラス会(翔蜻会:昭和55年卒業)より水道橋新校舎に対する大学へのご寄付

昭和55年卒業のクラス会(翔蜻会)一同より、卒業30周年を記念して水道橋新校舎に建築予定の新血脇記念ホールの備品費として100万円が寄付された。

平成21年12月22日(火)、水道橋校舎学長室において、翔蜻会の村山利之会長および臼井文規副会長から金100万円の目録が金子 譲学長に手渡された。翔蜻会では、平成20年のクラス会総会において「卒業30周年を迎えるに当たり、お世話になった大学に感謝のしるしを贈る」ことを満場一致で決定され、今回の寄付につながったとのことである。当日は、旧水道橋校舎で学生時代をおくった村山、臼井両先生が水道橋の思い出を語り、金子学長から旧水道橋校舎建築にかかわるお話をいただき、和やかなうちに贈呈式が執り行われた。

翔蜻会の一会員は、「今回の寄付金は、全体の移転費用からみたらほんの僅かなお金ではある

が、積極的に水道橋移転をバックアップしたいというクラス同窓生の願いが込められた寄付である。今後、この寄付がきっかけとなり、それぞれのクラス会から様々な名目の寄付が行われることを期待している。」と語った。



金子学長へクラス会(昭和55年卒業:翔蜻会)よりの寄付目録を手渡す村山会長(中央)と臼井副会長(左):平成21年12月22日(火)、水道橋校舎学長室

■市川総合病院新電子カルテシステム導入

平成22年1月より新電子カルテシステムが市川総合病院で本稼働した。旧電子カルテシステムのハードウェアの老朽化、ソフトウェアの陳腐化を解消して、フルオーダーリングシステムと歯科・医科統合型電子カルテシステムによるペーパーレスを目指した病院情報システムの導入が平成21年3月に決定し、平成21年4月からシステム導入準備を本格的に開始した。

院内導入体制では、23のシステム導入作業部に多職種の病院職員が参加して、既存業務の見直しを含むシステム運用方法を検討して、システムコア会議、部長会で最終決定・承認となり、電子カルテシステム運用管理委員会（診療録管理委員会）、管理診療委員会にて病院全体に新システ

ムの内容を周知徹底していった。

導入された新電子カルテシステムは、オーダーリングシステム、看護支援システム、歯科電子カルテシステム、医科電子カルテシステム等の基幹システム部分と、部門業務に特化したサブシステムがマルチベンダー連携している。主なハードウェア構成としては、各種サーバ71台をはじめ、PC端末561台を各部署に設置し、基幹系ネットワーク機器を二重化することで高速で安定したネットワーク環境が整備された。

今後は、新電子カルテシステムに蓄積される情報を活用していくこと、また電子化を推進して、医療現場により一層の効率性、利便性が確保できるよう努めていきたいと考えている。

学生会ニュース

■バドミントン部歯学体総合初優勝 祝賀会開催

東京歯科大学バドミントン部は2009年8月2日（日）～7日（金）に埼玉県くまがやドームで行われた「第41回全日本歯科学学生総合体育大会」バドミントン部門で男女総合優勝を果たした。体育会部活動で最も多い21ポイントを獲得し、本学の歯学体総合準優勝という結果に大いに貢献した。個人戦でも男子ダブルス準優勝（4年：三邊正樹・2年：片野 壮）、女子ダブルス優勝（衛2年：永田 彩・衛1年：鈴木春菜）、女子シングルス準優勝（衛1年：鈴木春菜）と好成績を残した。

これを祝して9月27日（日）にはバドミントン部OB会（会長：昭和56年卒阿部二郎先生）主催の祝賀会が開催され、多数のOBから偉業へのお祝いの言葉をいただいた。また席上、次年度から部

長がバドミントン同好会設立以来ご指導いただいた薬師寺 仁副学長から有床義歯補綴学講座の杉山哲也先生（昭和58年卒）へ引き継がれることが報告された。バドミントン部は現役部員19名を有する大規模部活動として、杉山新部長のもと、今後も本校の発展に貢献していくことを現役とOBで誓い合い、盛会のうちに祝賀会はお開きとなった。



祝賀会での記念写真：平成21年9月27日（日）、東京ドームホテル



試合当日の様子：平成21年8月7日（金）：埼玉県くまがやドーム

■東京歯科大学管弦楽団第32回定期演奏会開催

本学管弦楽部による定期演奏会が、平成21年12月26日（土）に千葉校舎講堂にて開催された。今回で第32回を数えるこの演奏会は、当初11月下旬に開催が予定されていたが、インフルエンザの流行による第3・4学年の学年閉鎖により、延

期を余儀なくされていた。当日は、現役部員に加え、OB・OGならびに本学教職員、千葉大学をはじめとした他大学の医薬系学部学生等の賛助出演を得て、総勢80名がステージに上った。

今回、新たにお迎えした直井大輔先生の指揮により、楽劇「ニュルンベルグのマイスタージンガー」前奏曲(R.ワーグナー)、歌劇「カルメン」第1組曲(G.ビゼー)、交響曲第1番「冬の日の幻想」(P.I.チャイコフスキー)の3曲およびアンコール1曲を演奏した。直井先生は、東京藝術大学音楽学部指揮科をご卒業され、プロ・アマ問わず数々のオーケストラ指導で定評のある指揮者で、演奏会当日まで厳しくも温かいご指導をいただいた。

今回の定期演奏会に至るまでには、昨年までの常任指揮者、故 鎌田由紀夫先生の急逝や、開催日間近での延期、加えて遠方のOB団員が出演断念など、開催そのものを脅かすような障害が数多く立ちはだかった。しかし、主将の赤木真理さん、コンサートマスターの北村 慶君(いずれも第4学年)を中心とした現役部員25名の懸命な努力により、幾多の困難を乗り越え、満を持しての開催となった。直井先生のエネルギッシュな指揮の下、オーケストラは溢れるような喜びをホール一杯に表現した。年の瀬も押し詰まった週末の夜にもかかわらず、ご来場いただいた聴衆からは惜しめない拍手が贈られ、演奏会は熱気の余韻を残して終演を迎えた。



第32回定期演奏会:平成21年12月26日(土)、千葉校舎講堂

■平成22年武道始め・鏡開き開催

平成22年1月7日(木)午後4時から千葉校舎体育館第3体育室において、金子 譲学長、佐藤 亨 学生部長、小田 豊教務部長並びに武道系クラブ部長や関係教職員を迎え、日本古来の伝統行事で

ある「平成22年武道始め」が富永浩平君(3年、弓道部主将)の司会により開催された。

金子学長、田崎雅和剣道部副部長が挨拶を述べた後、柔道部、弓道部、剣道部、空手道部、少林寺拳法部の順に演武が披露された。各部員とも「静」と「動」が素晴らしく現されていた。

武道始め終了後、厚生棟1階食堂に会場を移し「平成22年鏡開き」が行われた。各クラブ女子部員も餅つきに多く参加し、出来たてのお餅を食べる笑顔でいっぱいになった。

また、武道始め・鏡開きには来日中の延世大学の学生や海外からの留学生等も多く出席して頂き、日本の伝統・文化に触れる良い機会となった。



日本古来の伝統行事に緊張感がみなぎる各クラブ部員:平成22年1月7日(木)、千葉校舎体育館



一点集中、弓のしなる音だけが聞こえる静寂:平成22年1月7日(木)、千葉校舎体育館



竹刀を杵に持ち替えて「ヨイショ」:平成22年1月7日(木)、千葉校舎厚生棟

2009年の回想 &2010年の抱負

赤崎 有子 (企画・調査室 事務員)

昨年の12月から勤務しています。まだまだわからない事ばかりですが、周りの方々が温かく教えて下さり、早くお仕事を覚えて頑張っていきたいと思います。で、今回こちらを書く機会を頂きましたが、出来事や思う事を文章にするのはなかなか難しく、世の中にあふれるブログに今更ながら感心してしまいます。お仕事で拝見した広報第1号は昭和32年4月発行、もちろん手書きで写真は無く全4ページでした。当時は単に連絡事項だとしても、約50年後に読むとその時代を感じてちょっと面白い。なんてことは想像しなかっただろうと思います。図書館の大学史料室を拝見したときは、実際に書かれたり使われていた展示物にさらに長い歴史がありました。いつかずっと先に読まれたりするののかという妄想はしても、気が利いた事は残念ながら書けず、書けるのは今年の抱負は健康でちゃんと気遣いが出来る人になりたいと言う事です。

小野 広光 (大学事務局施設課 電気技師)

私は2010年で施設課技術員の職に就いて丁度10年目を迎えます。今このような世界的不景気の時代に無事職に就けていることを心より感謝したいと思います。

さて、2009年の回想と2010年の抱負についてですが、まず2009年の出来事をネットで検索して思い出してみると、昨年1番凄かったと私が勝手に思った人は、世界陸上ベルリン大会で100m、200mと世界新記録を達成したウサイン・ボルト選手です。その理由は、緊張するレース前にも拘らず、リラックスした雰囲気カメラに笑顔とギャグを見せ、しかもがむしゃらさを感じさせずに前人未踏の偉業を達成したことです。

と、いうわけで2010年の私の抱負は、ボルト選手のように世界一速く走る人になって世界をあっと言わせる様な事は出来ないので、まずは健康面に気を付け、そして仕事や学問に勉強し少しずつでも着実に進歩していきたいです。



鎌田 美樹 (図書課 事務員)

学生時代は、図書館でほとんど本を借りなかった私が、図書館に勤務してから早くも10ヶ月が過ぎようとしています。文字通り「分からないことだらけ」の新人図書館員の私を図書館の方々は温かく迎えてくれ、また学外の講習会や研修会にも多く参加させて頂きました。今振り返ると、2009年はあっという間ではあったものの、多くの方々と会い、多くの事を学んだ、充実した1年だったと思います。

今年1年は、自分のことで精一杯だった去年には出来なかったことや業務中に反省したことなどを思い出し、大学職員、また図書館員として、去年よりも成長できるように努力して行きたいと思います。まずは、転んで怪我をしないように今年も落ち着いて行動できるようにします。

川口 潤 (歯科麻酔学講座 大学院生)

昨年、東京歯科大学での臨床研修を終え歯科麻酔学講座に入局しました。今までとは大きく環境が変わり不安もありましたが、多くの先生方に暖かくご指導いただき大変充実した時間を過ごすことができました。昨年は、全身麻酔症例の担当や、登院生への学生実習の指導など、人とのコミュニケーションが印象的な1年となりました。

新年は、神奈川県立こども医療センターへの出向や、研究を始めたりと新たなことが待ち受けています。新年も充実した年になるように、何事にも意欲を持って臨みたいと思います。

小林 彩香 (学生 第1学年)

私は昨年の4月に東京歯科大学に入学しました。入学式独特の不安や緊張、そして何よりこれからの学校生活に対して期待に胸を膨らませていたの

を今でも覚えています。

東京歯科大学はクラス編成を取っているのので、友達がすぐにできました。また、入学早々に学外セミナーがあり、そこで友達の輪が広がりました。学外セミナー以降、さらに級友とは仲良くなり、楽しい毎日を送ることができました。私は人に恵まれたと身に染みて思う1年でした。

昨年は私生活がとても充実していたので、今年は勉学の方にも力を注いでいきたいと思います。2年生からは基礎科目も入ってくるので、今以上に歯科大生の自覚を持ると共に、努力をしなければなりません。きちんと身につけ、今後につなげていきたいと思っています。

小林 一重 (千葉病院 診療放射線技師)

昨年の5月、千葉病院に入職してから8ヶ月が過ぎました。2009年は私自身の技師人生20年の中で1日24時間が短く、とても足早に年が過ぎ去っていった年はそう記憶にはありませんでした。数年前まで他の大学病院で勤務していた際に歯科も経験していたこともあり、比較的早く仕事に慣れ落ち着くだろうと内心思っていました、やること全てが空回りして予想外に長い時間を要してしまいました。やはり環境の変化によるものか、または年齢によるものなのか…。いずれにせよバタバタと忙しない年だったことは事実です。

2010年はどのように時が過ぎていくか予測できませんが、技師として今まで築き上げた技術をさらに向上させ、信頼を得られる仕事が出来ればと考えています。

才藤 純一 (市川総合病院 臨床検査技師長)

昨年は世界的経済恐慌が起こり、経済も大きな打撃を受け、また新型A/H1N1によるパンデミックインフルエンザが猛威をふるい大きな影響を受けました。当病院でもこのような社会状況下で大きな業務転換期になり電子カルテ化の推進のため、その準備で各部署も大変だったし、臨床検査科でもインフルエンザ検査の慌ただしさや、電子カルテ化のための各検査部署のシステムの導入によって忙殺されていた感があります。しかし、同じ目的によって検査職員同士の協調や結束は高まったのも事実です。現在、電子カルテでも特に大きな問題もなく稼動しています。私も電子カルテを通



して当病院にとっての検査科の構築を模索する機会に恵まれた事を良かったと思っております。

さて、今年は病院の経済状況を占う診療報酬点数改定が差し迫っています。政権交代により民主党は全体で0.19%の増ということで決着し、まず一息と言うところでしょうか、検査関係ではDPCによる術中迅速病理組織標本作製が包括対象から除外されることや、検体検査管理加算がこれまでの包括評価から機能評価係数として別途評価される方向性が固まり、このことは当院内検査室の今後の方向性を見るうえで重要な意味を持っています。病院では昨年からの病院機能評価V6の取得へ向けての取り組みが始まっています。検査科でその備えをしなくてはなりません。私にとって取り巻く環境が新たな目的に向けての挑戦です。

坂 英樹 (解剖学講座 講師)

本年は大学創立120年にあたる記念すべき年になります。同じく私も大学卒業後ちょうど20年を迎えた記念の年となり、伝統ある母校には学生時代を含めるとほぼ四半世紀もお世話になっていました。大学の歴史上にある千葉時代を共に過ごしてきた年代にとっては、この度の水道橋移転決定は少し寂しくも感じられます。

今年は残り少なくなった千葉での生活をさらに充実させ、教育、研究に当たりたいと思います。

佐藤 会理萌 (大学事務局会計課 事務員)

入職当初、茨城の実家から通勤しておりましたが、昨年の秋に千葉へ転居しました。通勤時間が短くなったことで、愛用していたiPodの出番は少なくなりましたが、仕事に集中しやすい環境になりました。帰宅してから就寝までに自由に使える時間も持てるようになったので、料理や趣味の



時間に使ったりと充実した生活を送れているように感じています。これからはその時間を趣味だけでなく、資格の勉強をする時間等にも充て、自分自身を向上させる為に使っていきたいです。

昨年の春に入職し、まだまだ至らないことばかりですが、お世話になった皆様へ感謝し、そしてそのお礼として少しでも成長していきたいと心新たに思っております。本年もどうぞよろしくお願い致します。

高梨 琢也 (口腔健康臨床科学講座 レジデント)

昨年4月1日に千葉病院補綴科から水道橋病院口腔インプラント科に異動しました。異動当初は今までと異なる環境、異なる診療内容に戸惑い、ご迷惑をかけることも多々ありましたが、科長をはじめ周囲の方々に助けられ、比較的早く水道橋病院に馴染むことができました。非常に充実した1年を送ることができております。インプラント治療に関するトラブルがテレビや雑誌に取り上げられる昨今ではありますが、大学病院に勤務しているものとして基本的に忠実に診療に取り組んでいく所存であります。

今年の1月11日に第1子である長女が誕生しました。今のところ子供に振り回されている毎日ではありますが、育児に関しても日々成長する1年にしたいと思っています。

高原 利和 (学生 第5学年)

大学生活が始まって早5年。これまで大学生活の中で、多くのことを学び、感じてきたが、特に5年目の学生生活ほど印象深く、忘れられないものはなかった。

第5学年になると、1年間、病院で働きながら臨床を学ぶ「登院」という病院実習が始まる。右も

左もわからない状態からスタートした4月は大変なものだった。器材の名前や使用方法など、今までは卓上の知識であったものを実際に診療に生かさねばならない。そのため、覚えなおすことが多く毎日必死だった。また、実際に診療補助につくため、1日が終わるとクタクタの状態。家に帰ると寝るだけの生活になってしまった。けれども、登院生活は楽しかった。と言うのも、今まで出来なかったことが、下手ながらも少しずつ出来るようになっていく自分に嬉しさを感じたり、苦勞して仕上げた技工物を、自分で実際に患者さんの口にセットしたりと日々喜びがあったからだ。また、登院は臨床を学ぶだけでなく、人とのつながりの大切さを感じさせられる場でもあった。診療を通じて親しくさせて頂いた医局の先生方には公私にわたって大変お世話になった。そして、毎日とともに過ごし、同じ釜の飯を食う仲間となった班のメンバーとは、チームワークの大切さや困ったときは助け合う優しさを教えてもらった。僕にとって、2009年に得たものは大変大きなものだった。

時が経つのが本当に早い、残すところ登院生活もあとわずか、ついに最終学年となる。2010年、この1年は登院で得た貴重な糧をもとに残された学生生活を悔いなく有意義に過ごしていきたい。

津村 麻記 (生理学講座 研究員)

桜が満開の昨年4月、私は受託研究員として生理学講座に通い始めました。研究を通じてたくさんの人と出会い、研究以外にも様々なことを学ぶことができ、非常に充実した日々を送っています。

田崎教授をはじめ指導教員の澁川先生、生理学講座の先生方の温かいご指導により、生理学講座に来てから初めての学会発表であった基礎歯科医学会で優秀ポスター賞をいただくことができました。

私は今年の4月から助手になります。昨年とは異なり、新しい仕事が増えるため不安もありますが、今はそれらをひとつずつ着実にこなしていくことで自分自身が大きく成長できるであろうという希望でいっぱいです。今年も多くのことに挑戦していきたいと思っています。

樋口 ミキ (市川総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師)

市川総合病院に就職して、早4年目を迎えようとしています。当初は、初の認定看護師という立場で、看護の専門性に対する認知も低く、自分の専門とする知識・技術、活動を認めてもらうことに苦労したことを思い出します。今では、病院長はじめ、事務部門、医師、看護部、コメディカルの多大な理解と支援のもとに、看護部長室所属の褥瘡専従管理者として、褥瘡回診、創傷・ストーマ、失禁ケアを専門に外来・病棟を問わず活動しています。2009年は、学会発表や院外講習会の運営、外部講師、他大学の研究協力や2校の認定看護師教育の指導に携わるなど、目まぐるしい一年でしたが、充実していました。

2010年は、5年目の資格更新となる節目の年であり、更に自己の専門領域を生かした『フットケア外来』や『失禁ケア外来』の構想を練り、患者様のQOL向上に努めていきたいと考えています。今後も、看護の専門性と重要性がより多くの方に認めて頂けるよう、看護の位置づけを向上させるべく飛躍し続けますので、皆さん、看護部にご期待・ご注目ください。

福士 貴子 (水道橋病院給食室 管理栄養士)

東京歯科大学水道橋病院に勤務し始めて3年目を迎えた昨年、「今年こそは、日々平穩に淡々と仕事をしたい・・・」という想いを年明け早々に打ち砕かれ、今までになくハードな日々を過ごすことになりました。そんな中でもいろいろな人達との出会いがあり、肉体的には辛くても精神的には充実した日々を過ごすことができました。その良い流れを保ちつつ、2010年は、肉体的にも精神的にも落ち着いたものにし、今まで以上に患者様に喜んでいただける食事を提供することが目標です。そのための献立の見直しなどを計画していますが、一人でも多くの「おいしかったです」の声が聞けるように頑張りたいと思います。

三木 敦史 (市川総合病院会計課 係長)

昨年4月、人事異動で教務課から市川総合病院会計課へ配属となり、係長となりました。会計経験はありましたが、初めて携わる事項も多く、また、立場が変わったことで見える景色も変わり、戸惑いながら勤めた9ヶ月でした。最近やっと慣

れてきましたが、まだ把握が不足し焦り気味です。そんな自分でもやってこられたのは、やはり、周りの方達のお陰だと思います。今年はもっと業務に精通して周りの方たちの負担を減らし、自分の立場と役割について、より自覚を持って臨みたいと考えています。

私的なことでは、富士山を題材に写真を撮ることに凝っています。以前、撮った写真を自宅PCの壁紙にしていたら、もっといろいろな角度から撮ってみたいという想いに駆られ、ここ何年かは年初に富士山を訪れることが習慣になっています。家族は多分写真などに興味は無いだろうとうすうす感じながらも、快く付き合ってくれていることに感謝しています。

思えば、公私共にしたいことが出来るのも支えてくれる方がいるお陰です。慌ただしい中生活していると自分優先で物事を考え、回りの状況が見えなくなりがちですが、感謝と気配りを忘れずに2010年を乗り切っていきたいと思います。

八木 梓 (歯科衛生士専門学校 学生)

「日々勉強」「日々成長」「日々感謝」

今年、成人式を迎え学生生活も後半に差し掛かり大事な時期である。期待はもちろんのこと不安も大きい。しかし自分で選んだ道に同じ目標を持った友人が居て、恵まれた環境の中で過ごしていることに感謝し、それが私の中でとてもプラスになっていると思う。

だからこそ気持ちに余裕を持って、1つ1つのことを着実にこなしていき、学生生活という限られた時間の中で今やるべきことをやり、今しかできないことに挑戦して、いろいろな事を吸収していきたい。



国際渉外部レポート

■韓国・延世大学校歯科大学より見学生来校

平成22年1月6日(水)より1月15日(金)までの2週間、延世大学校歯科大学の5年生、Kang Chungmin(カン・チョンミン)さん、Kwon Hyejin(クオン・ヘジン)さんの2名が、延世大学校のElective Study Programの参加学生として来校した。

延世大学校が歯学部5年生を対象に行っているこのプログラムは、海外の特色ある歯科教育機関を見学して国際的視野を広げるという研修制度である。初の試みとして受け入れた2年前は、基礎系・臨床系のほぼすべての講座に、半日ずつプログラムにご協力いただいた。今回は各講座に事前にプログラム内容をご提示いただき、先方の学生に選択させるという方法を試験的に採用した。

ご提示いただいたプログラムをもとに、学生の選択に従って日程調整を行い、9講座が講義や実習を担当した。延世大学校とのウェブ・カンファレンスや手術見学、郊外の保健センターにおけるフィールドワークといった多彩な内容に学生たちも感激し、来年以降、東京歯科大学への参加希望

者が増えるだろうと感想を述べていた。

1月7日(木)には武道始めを見学して伝統的な日本の文化を楽しみ、引き続き行われた鏡開きでは、在籍する他の留学生たちと、日本を含めた食文化の違いを語り合っていた。最終日の1月15日(金)には金子 譲学長より修了証を受領した。

こうした交流は両校にとって良い刺激となるため、今後も関係各位にご協力いただき、より良い受け入れ体制の整備に努めたい。



修了証の受領後、学長室にて記念撮影:平成22年1月15日(金)、千葉校舎学長室

図書館から

■本学教員著書リスト

(本学の教員名が標題紙に記載されているものに限定)

眞木吉信 [ほか] 監著「臨地実習 Hand book」クインテッセンス出版、2009

○本学教員の著書については、特に収集に努めております。著書発刊のときには、できましたらご寄贈のほどよろしくお願いいたします。

■文献データベース講習会開催

平成22年1月19日(火)に医中誌WEB講習会、1月21日(木)にScopus講習会を午後6時より図書館視聴覚室にて開催した。講師はそれぞれ外部よりお招きした(医中誌WEB・紀伊国屋書店吉田ゆり子氏、Scopus・ゼファー・ビヨンド松山裕二氏)。医中誌WEBでは基本的な検索方法から候補語辞書を使った検索方法についてご説明いただい

た。Scopusでは論文投稿に有用であるJournal Analyzerを用いた検索方法等についてご説明いただいた。2日間で16名の参加があり、好評のうちに終了した。(それぞれのデータベースは、千葉・市川・水道橋の3キャンパスにて、図書館ホームページより利用可能である。)



医中誌WEB講習会風景:平成22年1月19日(火)、図書館2階視聴覚室

■2010年購読雑誌契約更新について

外国雑誌については、学内にアンケート調査を行った結果を元に、2010年より冊子版を中止して電子ジャーナルのみの購入に切替えた雑誌が48誌、購入中止としたものが4誌となった。国内雑誌は変更なく2009年購入雑誌を更新した。なお、2010年の契約変更雑誌名は図書館ホームページ上で閲覧できる。

(<http://info.tdc.ac.jp/lib/2010/01/index.html>)

〈大学史料室から〉

■ポータブル歯科治療椅子の寄贈を受ける

平成22年1月、東京都目黒区在住の後藤譲治先生(昭和38年卒)佳子先生(昭和41年卒)ご夫妻から、ポータブル歯科治療椅子をご寄贈いただいた。この椅子は奥様のご尊父故黒田芳松先生(同窓会推薦会員)が、戦時中に北海道上川郡剣淵町へ疎開し開業されて間もない頃に知人から頂いた品で、縦47cm、横42cm、高さ24cmの木箱の中に肘掛や脚などの部分が収納されていて、容易に持ち運ぶことができる。箱を開き座面と背もたれの部分とし、中の部品を組み付けて椅子が出来上がる。箱には「Portable」と「PATNT NO.17.803」と刻印されているだけで、国名や製造年は断定できない。先生から「支柱や卓子などの付属の器具類は散逸してしまい椅子本体だけになったが、100年近く昔の物であろう。」とお話を伺った。大変に珍しく貴重なポータブル歯科治療椅子であり、史料室で大切に保存し、広く閲覧に供し後世に伝えたい。



後藤先生、佳子先生ご夫妻:平成22年1月、ご自宅にて

■「Books Pick Up」

平成21年12月10日(木)より、図書館2階閲覧室において「ダーウィンの本について(生誕200周年)」をテーマとして、ダーウィンの著書、研究書および関連図書を展示している。2009年は「種の起源」の著者、チャールズ・ダーウィンの生誕200年記念の年であり、図書館で所蔵している関連図書をピックアップし、更に教養系の先生に推薦していただいた、医学を進化の視点で捉えた進化医学の図書など、新たに購入した図書も加えて展示している。



肘掛や脚などが収納されて折り畳まれた椅子



寄贈されたポータブル歯科治療椅子(組み立てた状態)

歯科衛生士専門学校ニュース

■歯科衛生士専門学校第59期生修学旅行

東京歯科大学歯科衛生士専門学校第3学年第59期生は、11月15日(日)、16日(月)の1泊2日の日程で、群馬県伊香保温泉に修学旅行に出かけた。朝8時、バスで千葉校舎を出発し、出発後10分でゲームを開始、1時間後にはカラオケ。前日に模擬試験、前々日には卒業論文を提出したとは思えない元気さで、修学旅行の1日目はスタートした。

最初の目的地は水沢観音。神社は黄色、オレンジ、赤とグラデーション鮮やかな紅葉に彩られており、美しい紅葉の境内を散策した。みんなでおみくじを引いたり、学業成就のお守りを購入したりと楽しみ、そして3月に実施される国家試験の合格を全員で祈願した。

次に訪れた群馬ガラス工芸美術館では、ガラス細工に思い思いのペイントを施す体験をしたが、歯科衛生士の"たまご"として日頃から細かい作業には慣れているせいか、みんなステキな作品を完成させていた。



ガラス細工のペイント体験：平成21年11月15日(日)、ガラス工芸美術館



みんなで楽しくアイスクリーム作り：平成21年11月16日(月)、伊香保グリーン牧場

楽しい1日を過ごし、夕方「岸権旅館」に到着した。夜はお楽しみの大宴会。美味しい料理とお酒を楽しみながら、おおいに盛り上がった。有数の温泉地、伊香保温泉のお湯で日頃の疲れを癒し、国家試験に向けての充電を行うことができた。

2日目、始めのアクティビティーは伊香保グリーン牧場。アイスクリーム作りをし、動物とふれあい、バーベキューでお腹を満たした。自分達で作ったアイスクリームは、昼食のデザートとして美味しく頂いた。

その後、この旅、最後の目的地である群馬サファリパークへ移動し、「ほんとに、ほんとに、ほんとにライオンだ! 近すぎちゃってどうしよう!」というサファリパークのCM通り、動物との距離の近さに驚きあった。珍しい動物をたくさん見ることができ、オトナの動物園を満喫することができた。

1泊2日という短い時間だったが、笑いの絶えない貴重な時間を過ごすことができた。



みんなそろっての記念撮影：平成21年11月15日(日)、ガラス工芸美術館

■卒業研究論文発表会

東京歯科大学歯科衛生士専門学校では、3年制教育への移行に際して、卒業研究論文の作成を独自のカリキュラムとしてとり入れた。この卒業研究を通して、学生たちには問題発見、問題解決能力を高めることを期待している。具体的には、普段の生活や、講義、実習で、疑問に持っていることの中から研究テーマとなるものを探しだし、この問題について詳細に調べ問題点を解決するべく、東京歯科大学および歯科衛生士専門学校の各

講座研究室に出かけ、卒業研究論文担当の先生方のご指導により、2年以上の時間をかけて、資料を調べ、論文を読み、試行錯誤しながら、研究の立案や研究方法を選択し、そして実際の実験やフィールド調査などを行ってひとつの論文にまとめ上げるのである。

第4回目の今回は、第59期生全員の論文がまとめられ、312ページにおよぶ厚い卒業研究論文集として発行された。11月26日(木)には、東京歯科大学千葉校舎の講堂において、歯科衛生士専門学校校の全学生と、論文指導の先生やその他の参加者を集め、卒業研究発表報告会が開催された。

発表報告会は、学会形式をとり、受付から、座長、タイムキーパーなどの役をすべて3年生が運営して行われた。午前9時、下野正基学校長の開催挨拶につづき、6分間のPowerPointによるプレゼンテーションと、2分間の質疑応答が始まった。自分の研究を自信を持って発表する様や、フロアからの質問に緊張しながら答える姿は新鮮で、3年間の学生生活の総まとめとして、とても印象的であった。

研究テーマは、基礎から臨床の広い範囲にわたっており、ブラッシングや歯磨剤、フッ化物やホワイトニング、スケーリング、ルートプレーニ

ングなど口腔ケアが歯の微細構造に与える影響などや、プラークの細菌学的研究、歯科材料、運動や食習慣、さらに、様々な角度からのフィールド調査などであった。また、在学中の留学生からは、中国における学校歯科保険の現状や、市民の歯科保険に対する意識実態の調査などの発表もあり、多彩で興味の持てるものであった。

はじめの頃は先が見えず、不安がいっぱいの学生たちが、時間をかけて研究が形となっていき、論文集となった。その研究成果を多くの聴衆の前で発表することを通して、大きな達成感を得ていく過程は、学生たちの成長そのものであった。この貴重な体験は、卒業後の臨床の場においても大きな自信となって返ってくるのではないだろうか。

今回の卒業論文は、東京歯科大学の石上恵一、石原和幸、伊藤太一、小田 豊、古賀 寛、坂本輝雄、末石研二、田崎雅和、角田正健、中川寛一、野嶋邦彦、松久保 隆、茂木悦子、米津卓郎先生(五十音順)、そして歯科衛生士専門学校の眞木吉信、嶋村一郎、橋本貞充、杉山節子、白鳥たかみ、永井由美子、多田美穂子、城川明日香、江口貴子の各講師に指導頂いた。長期間にわたり、親身になって指導していただいたことは、学生たちにとっても大変思い出深い経験となり、社会に出てからの大きな自



卒業研究論文発表会の風景:平成21年11月26日(木)、千葉校舎講堂



発表報告会終了後の達成感のなかでの集合写真:平成21年11月26日(木)、千葉校舎講堂



発表する学生:平成21年11月26日(木)、千葉校舎講堂



発表する学生:平成21年11月26日(木)、千葉校舎講堂

信となるものと信じている。

一日をかけた研究発表報告会は、総評のあと全員で記念撮影を行い、終了となった。その後、食

堂の2階でささやかな懇親会が開かれ、なごやかに楽しい時間を過ごして閉会した。

創立120周年記念事業

■創立120周年記念事業ポスター作製

本年執り行われる創立120周年記念事業のポスターを作製いたしました。本ポスターは、本学のキーカラー三色を陸・海・空、地層・結晶・朝焼けのイメージにからめて120年の継承と発展を表

現したものであります。

(本ポスターをご希望の際には、大学事務局企画・調査室までご連絡下さいますようお願いいたします。規格はB2版)

東京歯科大学創立120周年記念学術講演会
(第289回東京歯科大学学会)

会場：東京国際フォーラム

2010.5/8.sat

1.口腔科学研究センターシンポジウム
「口腔アンチエイジングによる生体制御」

1) 「口腔に存在する腸菌の生態、機能維持で表れる歯科学の進展」
司会：野村 隆夫(東京歯科大学口腔科学研究センター 研究学術部長)

2) 「最新歯科材料の動向」講演会
Dr. Ulrich Herrlich & Reginald H. Ingber(米国立大学)

3) 「歯周病治療戦略によるエイジング制御の最新」
司会：高橋 誠(東京歯科大学口腔科学研究センター 歯周病学専攻)

4) 「口腔による口腔癌発症の発生と予防戦略」
司会：高橋 誠(東京歯科大学口腔科学研究センター 歯周病学専攻)

5) 「口腔癌治療の最新動向」
司会：野村 隆夫(東京歯科大学口腔科学研究センター 歯周病学専攻)

2.基調講演「歯の再生は可能である」

司会：野村 隆夫(東京歯科大学 歯周病学専攻) 高橋 誠(東京歯科大学口腔科学研究センター 歯周病学専攻)

3.特別講演「IPG細胞を用いた再生医学研究」

野村 隆夫 野村 隆夫(東京歯科大学 歯周病学専攻)

4.国際シンポジウム
「40年を証したインプラントの光と影」

1) [Nonfunctionalization of the dental implant surface]
Prof. John A. Jansen(オランダ国立大学、オランダ)

2) [Trends in an Aging Population: Changing Concepts]
Prof. Hideo Morikawa(岡山大学、日本)

3) 「歯周病治療から見えるこれからのインプラント治療」
司会：野村 隆夫(東京歯科大学 口腔インプラント科)

2010.5/9.sun

1.国内シンポジウム「食に関わる口腔健康」

1) 「歯とよく「食」を結ぶ健康の重要性について」
司会：野村 隆夫(東京歯科大学口腔科学研究センター)

2) 「歯周病からの水と蛋白質の代謝的仕組み」
司会：野村 隆夫(東京歯科大学口腔科学研究センター)

3) 「歯の咀嚼機能と歯の健康」
司会：野村 隆夫(東京歯科大学口腔科学研究センター)

4) 「歯・顎・舌・咽喉の神経線維に及ぼされる口腔内外的感覚刺激」
司会：野村 隆夫(東京歯科大学口腔科学研究センター)

2.コンサート「ウィーン少年合唱団」

無料(要申込)：オペラ座大ホール(東京オペラシティ)にて開催

3.市民公開フォーラム「本当に怖い歯周病!歯周病が糖尿病を招いている」

1) 「メタボと歯周病の不安定な関係」
司会：野村 隆夫(東京歯科大学口腔科学研究センター)

2) 「歯周病は心臓の健康を」
司会：野村 隆夫(東京歯科大学口腔科学研究センター)

3) 「メタボと歯周病」
司会：野村 隆夫(東京歯科大学口腔科学研究センター)

2010.5/22.sat

東京歯科大学創立120周年記念式典・祝賀会

会場：聖園ホール
東京都千代田区内幸町1-1-1 (丸の内線千代田駅)

東京歯科大学 継承と発展
創立120周年記念式典・祝賀会

学術講演会 お問い合わせ
東京歯科大学創立120周年記念事業 学術講演会事務局
TEL: 03-5273-0720(大学事務局 教務課) 千代田区千代田1-1-1

記念式典・祝賀会 お問い合わせ
東京歯科大学創立120周年記念事業 式典・祝賀会事務局
TEL: 03-5273-1170(法人総務課 企画課) 千代田区千代田1-1-1

人物往来

■国内見学者来校

千葉校舎・千葉病院

- 太陽歯科衛生士専門学校(学生84名、教員3名)
平成21年12月15日(火)解剖実習室、病院見学
- さいたま柔整専門学校(学生118名、教員5名)
平成22年1月28日(木)解剖標本室、解剖実習見学

市川総合病院

- 獨協医科大学病院(看護師1名)
平成21年12月14日(月)病院見学

■海外出張

- 白石 建教授、青山龍馬助教(市病・整形外科)
第15回ベトナム脊椎外科学年次学術集会において、ライブサージェリーセッションの講師として、また、白石教授は招待講演のため、および日本脊椎脊髄病学会国際委員として両国の脊椎外科学会のアライアンス促進のため、平成21年12月2日(水)から7日(月)まで、ベトナム・ホーチミンへ出張。
- 許斐健二助教(市病・眼科)
第5回国際角膜クロスリンク学会に参加のため、平成21年12月3日(木)から7日(月)まで、ドイツ・ライプツヒヘ出張。
- 薬師寺 仁教授、新谷誠康教授、今井裕樹講師、山下治人大学院生(小児歯科)
同済大学児童口腔医学研究所との共同研究、および学術交流のため、薬師寺教授、新谷教授は平成21年12月10日(木)から13日(日)まで、今井講師、山下大学院生は平成21年12月6日(日)か

ら13日(日)まで、中国・上海へ出張。

- 丸茂 健教授(市病・泌尿器科)
第12回アジア太平洋性機能学会に参加、および発表のため、平成21年12月12日(土)から15日(火)まで、シンガポールへ出張。
- 笠原正貴講師、武田慶子臨床専門専修科生(歯科麻酔)
ミャンマー連邦国にて口唇口蓋裂児への医療援助、技術指導、および学術調査のため、平成21年12月13日(日)から28日(月)まで、ミャンマー連邦国・ネピド、サガインへ出張。
- ビッセン弘子教授(水病・眼科)
2010 Japanese Surgical Advisory Councilに出席のため、平成21年12月31日(木)から平成22年1月7日(木)まで、アメリカ・ハワイへ出張。
- 渋川義宏准教授(歯周病)
トーマスジェファーソン大学にて、Maurizio Pacifici教授とEiki Koyama准教授と共同研究のため、平成22年1月6日(水)から14日(木)まで、アメリカ・フィラデルフィアへ出張。
- 相澤光博診療放射線技師(水病・放射線科)
International Workshop on Advance Image Technology 2010に参加、および発表のため、平成22年1月10日(日)から12日(火)まで、マレーシア・クアラルンプールへ出張。
- 石原和幸教授(微生物)
Gordon Research Conference Spirochetes , Biology Ofで発表のため、平成22年1月30日(土)から2月6日(土)まで、アメリカ・カリフォルニアへ出張。

大学日誌

平成21年12月

- 1 (火) 教務部(課)事務連絡会
省エネルギーの日・防災安全自主点検日
- 2 (水) リスクマネージメント部会
ICT会議
輸血療法委員会
臨床検査部運営委員会

- 2 (水) 第3回補助金管理運営事務連絡会
臨床検査運営委員会(市病)
口腔健康臨床科学講座会(水病)
- 3 (木) 院内感染症予防対策委員会(市病)
- 4 (金) 第26回カリキュラム研修ワークショップ(~6日)
大学院事務連絡会
- 5 (土) 大学院入学試験(I期)

- | | | | |
|--------|--|--------|---|
| 5 (土) | 新電子カルテシステム第1回リハーサル(市病) | 16 (水) | 一般入学試験 (I期)、大学入試センター利用試験 (I期) 願書受付開始(～1/27) |
| 6 (日) | 入試ガイダンス〔於:水道橋校舎〕 | | 図書委員会 |
| 7 (月) | 第89回歯科医学教育セミナー
ICTランチタイムセミナー (～10日)
(市病)
臨床研修作業部会(水病) | | 学生部(課)事務連絡会
CPC (市病) |
| 8 (火) | 粗大ゴミの廃棄(～10日)
臨床教授連絡会
講座主任教授会
人事委員会
歯科衛生士専門学校教員会
給食委員会(水病) | 17 (木) | 千葉校舎課長会
業務連絡会
高度・先進医療委員会
部長会(市病)
医療安全管理委員会(水病)
感染予防対策委員会(水病)
個人情報保護委員会(水病)
科長会(水病) |
| 9 (水) | 基礎教授連絡会
大学院運営委員会
大学院研究科委員会
看護部運営会議(市病)
業務改善委員会(市病)
救急委員会(市病)
ICU運営委員会(市病)
リスクマネージメント部会(水病)
薬事委員会(水病)
医薬品安全管理委員会(水病) | 18 (金) | 1～4年生前期追・再試験 (～1/15迄に随時実施)
3・4年生学年閉鎖の振替授業 |
| 10 (木) | 120周年学術講演部会会議
医療安全管理委員会(市病)
手術室運営委員会(市病) | 19 (土) | 歯科衛生士専門学校1年生前期追・再試験(～1/8) |
| 11 (金) | 大学院入学試験 (I期) 合格発表
歯科衛生士専門学校3年生卒業試験(・14日)
ICT委員会(市病)
感染予防指導チーム委員会(水病) | 21 (月) | 予算委員会
医療連携委員会
医療サービスに関する検討会
機器等安全自主点検日
電子カルテシステム運用管理委員会(市病)
NST会議(市病)
教職員研修会(水病) |
| 14 (月) | 病院運営会議
個人情報保護委員会
医療安全管理委員会
感染予防対策委員会(ICC)
臨床教育委員会
医局長会
プログラム責任者・副責任者会議 | 22 (火) | 3年生学年閉鎖の振替授業
データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会
看護部運営会議(市病)
病院連絡協議会(水病)
診療録管理委員会(水病) |
| 15 (火) | 環境清掃日・危険物・危険薬品廃棄処理日
院内褥瘡対策委員会(市病)
新電子カルテシステム第2回リハーサル(市病) | 24 (木) | 3・4年生学年閉鎖の振替授業
歯科衛生士専門学校2年生前期再試験(～25日)
管理診療委員会(市病) |
| | | 25 (金) | 1～4年生冬期休暇(～1/7)
歯科衛生士専門学校学生冬期休暇(～1/7)
クリニカルパス委員会(市病)
社保委員会(水病) |
| | | 28 (月) | 仕事納めの会(千葉校舎・市病・水道橋校舎) |

29 (火)	旧電子カルテシステム停止(市病)	13 (水)	放射線委員会(水病)
30 (水)	新電子カルテシステム参照可能(市病)	14 (木)	基礎教授連絡会 大学院運営委員会 大学院研究科委員会 医療安全研修会 振替授業(月曜日分) 医療安全管理委員会(市病) 治療審査・倫理委員会(市病) 手術室運営委員会(市病) 大学院研究科委員会(水病)
31 (木)	新電子カルテシステム本稼働(市病)	15 (金)	1・2年生休講日 3・4年生前期追・再試験 環境清掃日・危険物・危険薬品廃棄処理日 ICT委員会(市病)
平成22年1月			
5 (火)	仕事始め 年頭学長挨拶〔千葉校舎・市病・水道橋校舎〕 教務部(課)事務連絡会 省エネルギーの日・防災安全自主点検日 新電子カルテシステム本稼働(外来)(市病)	16 (土)	大学入試センター試験(～17日) 午後のコンサート(市病)
6 (水)	リスクマネージメント部会 ICT会議 千葉校舎課長会 6年生第4回総合学力試験(～7日) 口腔健康臨床科学講座会(水病)	18 (月)	病院運営会議 個人情報保護委員会 医療安全管理委員会 感染予防対策委員会(ICC) 臨床教育委員会 医局長会 4年生学年閉鎖の振替授業 薬事委員会(市病)
7 (木)	武道始め・鏡開き 院内感染症予防対策委員会(市病)	19 (火)	教養科目協議会 院内褥瘡対策委員会(市病) CPC(市病)
8 (金)	1～4年生授業再開 大学院事務連絡会 第3回補助金管理運営会議 予算事務打合せ会 3年前期追・再試験 歯科衛生士専門学校授業再開 感染予防指導チーム委員会(水病)	20 (水)	機器等安全自主点検日 歯科衛生士専門学校一般入学試験願書受付締切 業務改善委員会(市病)
12 (火)	プログラム責任者・副責任者会議 3年前期追・再試験 大学院入学試験(Ⅱ期)願書受付開始(～2/10) 歯科衛生士専門学校臨床実習委員会	21 (木)	学生部課事務連絡会 業務連絡会 高度・先進医療委員会 部長会(市病) 東京都エイズ診療従事者臨床研修(第1日目)(水病) 医療安全管理委員会(水病) 感染予防対策委員会(水病) 個人情報保護委員会(水病) 科長会(水病)
13 (水)	成績委員会 臨床教授連絡会 第3回HBワクチン接種・4年生 医療ガス安全管理委員会 講座主任教授会 総合講義検討委員会 人事委員会 看護部運営会議(市病) 救急委員会(市病) ICU運営委員会(市病) リスクマネージメント部会(水病) 薬事委員会・臨床検査室委員会(水病)	22 (金)	クリニカルパス委員会(市病)

- | | | | |
|--------|---|--------|---|
| 22 (金) | 東京都エイズ診療従事者臨床研修 (第2日目) (水病) | 26 (火) | データ管理者会議
カルテ整備委員会
診療記録管理委員会 |
| 23 (土) | 歯科衛生士専門学校一般入学試験 | 27 (水) | 健康管理センター会議
一般入学試験 (I期)・大学入試センター利用試験 (I期) 願書受付締切
看護部運営会議 (市病)
病院連絡協議会 (水病)
診療録管理委員会 (水病) |
| 25 (月) | 給食委員会
医療連携委員会
第90回歯科医学教育セミナー
歯科衛生士専門学校一般入学試験選考委員会
電子カルテシステム運用管理委員会 (市病)
NST会議 (市病) | 28 (木) | 管理診療委員会 (市病) |
| 26 (火) | 薬事委員会 | 29 (金) | 1～4年生後期授業終了
社保委員会 (水病) |

東京歯科大学広報 編集委員

内山健志 (委員長)

井上直記 江波戸達也 王子田 啓 狩野龍二 金安純一 河田英司 坂本智子 椎名 裕 柴家嘉明
新谷益朗 田口達夫 日塔慶吉 野島靖彦 橋本貞充 前田健一郎 米津博文 (平成22年1月現在)

編集後記

この広報に掲載されていますように、今年、本学は記念学術講演会を初めさまざまな創立120周年記念事業が行なわれます。まさにepoch-makingの年であります。わが国のepoch-makingな出来事といえば、1964年昭和39年に開催された東京オリンピックをその一つに数えても異論はないと思います。写真は開催に備えて建設された、国立代々木競技場です。ここは代々木オリンピックプールともいわれている本館の第一体育館と、バスケットボール競技が開かれた第二体育館から成っています。丹下健三の設計によって建てられ、戦後日本を代表する名建築と高く評価されています。屋根全体が吊り橋と同じサスペンション構造によって吊り下げられているので、内部に柱がありません。外国選手団からも競技の観戦に集中することができますと絶賛されました。ここで、4つの金メダルを獲得した男子自由形ショルダー、3連覇を達成した女子100m自由形フレイザーのレースが繰り広げられましたが、もはや歴史の1頁でしょうか。その後、アイススケート、バレーボール、ハンドボール、バドミントン、卓球関東学生リーグなどのアマチュア大会におおいに利用されました。なにより視界を妨げるものが少ないことから、プロボクシング、K-1、プロレスリングなどのプロスポーツ興行さらにCHAGE and ASUKAや尾崎 豊最後のコンサートなどエンターテイメントにも使われています。

スポーツ(sports, sport)の意味は、競技、レジャー、健康などを目的とする身体運動の総称とされています。大正時代には野球やテニスなど欧米から入ったスポーツのみをさし、戦後には柔道や空手などの武道も含むようになりました。しかし由来としての種目は、fishing, shooting, huntingに遡り、語源的には「気晴らし」や「遊び」の意味あいがあると言われています。それにしてもワールドカップのサッカーなどを見ると、スポーツは観戦、応援を通り越し、もはやナショナリズムの代理戦争のような気がします。ギリシャの古代オリンピック競技が戦争に勝利するための種目であったことを考えれば頷けるし、ある意味では必要でしょうが、やはりfairな勝負が終わったら、相手を称え、尊重するスポーツマンシップこそスポーツが持つ素晴らしいさではないかと思えます。

(広報・公開講座部長：内山健志)



国立代々木競技場 (Wikipediaより転載)